

携帯向け位置情報サービス最新動向

ゲームや介護でも活用

位置情報サービスはゲームやSNS、観光案内など、さまざまな場面で使われ始めており、高齢化が進む日本では介護や健康分野での活用も進みそうだ。位置情報サービスの最新動向をレポートする。

文 村上麻里子(本誌)

携帯電話を使って取得した現在地情報を活用する「位置情報サービス」が広がりを見せている。

その背景として大きいのは、総務省が2007年4月以降、3G携帯電話端末にGPS機能を原則として標準搭載することを義務付けたことだ。その結果、2011年には普及している端末の約9割にGPS機能が搭載される見込みだ。

GPS対応端末が普及したことで、当初の経路検索やナビゲーション用

途にとどまらず、例えば子供の居場所探索での活用などもポピュラーになった。最近では、単に現在地の情報だけでなく、観光情報やローカル情報など「この場所ならではの情報」を一緒に提供するサービスも多く登場している。

「位置情報自体が1つのツールになり、仮想世界も含めて遊びに活用されたり、生活に密着したサービスが広がっている」と、NTTドコモ・コンシューマサービス部コミュニケーションサービス企画担当主査の緒方進氏は話す。

ドコモでは、冬春モデルの一部機種に搭載されている「オートGPS」機能を使って、よりきめ細やかな位置情報サービスを実現している。オートGPSは、自動測位した現在地情報を5分間隔でサーバー側に送ることで、ユーザーの現在の状況に合った情報提供を可能にするもの。例えば旅行に行く際、出発空港に到着したときに運行情報、到着空港では目的地の天気などの情報を配信するというサービスを提供している。

「iモードと比べて、リアルな拠点を持っているプレイヤーとうまくソリューションを組んでいける(コンシューマ



NTTドコモ
コンシューマ
サービス部
コミュニケーション
サービス企画担当
主査
緒方進氏



NTTドコモ
コンシューマ
サービス部
ネットサービス
企画担当主査
伊藤邦宏氏

サービス部ネットサービス企画担当主査の伊藤邦宏氏)。

無線LANはGPSの補完

ところで、携帯電話で位置情報を取得する方法には、GPS衛星からの取得の他に、基地局から取得する「簡易位置情報」がある。

GPSの場合、簡易位置情報と比べてより詳細な位置を把握できる反面、高層ビルが立ち並ぶ都市部や屋内では誤差が生じやすく、またバッテリーも消費しやすい。一方、簡易位置情報はGPSより精度は劣るが、バッテリーの消費が少ないという特性がある。このためCPは、より正確な情報が求められるナビゲーションはGPS、大まかな情報でも十分なゲームは簡易位置情報といった使い分け



頓智ドットCOMの「セカイカメラ」は、「Place Engine」のマルチフロア推定機能によりフロアや製品ごとの情報を表示できるようになった(写真はロエベ表参道ブティック)
©Tonchidot Corporation